

管内教務主任研修会から

平成24年11月30日(金)、東山地域交流センターで管内小・中学校教務主任研修会を行いました。研修会では平成25年度の教育課程編成に向けて、県の施策に基づいて留意したい点について説明しました。また、「いわての復興教育」について、各校の実践を交流し合うとともに、復興教育の視点を取り入れた来年度の教育課程編成の在り方について小・中学校別に研究協議を行いました。

(1)情報提供「3.11 あの日から」について

情報提供：県南教育事務所 指導主事 齋藤 真

釜石における被災当時の緊迫した避難の状況や、その後の避難生活の厳しさ、釜石東中学校の生徒が困難の中で見せた



ひた向きの姿について情報提供しました。参加者からは「いまだ復興とはほど遠い被災地の現状に心を寄せながら岩手の教員として日常の教育活動を進めなければいけない」「震災を風化させずに復興教育を進めていくことの重要性を再認識した」との感想が多く聞かれました。

(2)講義「平成25年度の教育課程編成に向けて」

学力向上に向けた取組(諸調査等の結果より)

- 小国、中数・英では、授業が分かる児童生徒の割合が増加してきています。
- 宿題の評価・指導を行う教員の割合が増加し、宿題の定着が図られてきています。
- 家庭での学習時間が増加し、テレビ等視聴時間が減少してきています。
- 前沢小・中学校では、小・中それぞれのよさを生かしつつ、9年間の系統性をふまえた小中一貫カリキュラムにもとづく実践が行われ、各種調査結果からも「学習の達成度や理解度」等が大きく高まるなどの成果を挙げています。

ポイント：基礎・基本のさらなる定着を目指して諸調査等の結果をPDCAサイクルに位置付け、定着のための効果的な学習時間を確保しつつ、明確な学習課題を設定した「分かる授業」の取組を進めましょう。

いじめ問題への対応について

○一関中学校では、「勇気」「こころ配り」「笑顔」の三本柱をもとに、いじめ対応チーム会議を中心にした「いじめを起ささないための日常の取組」と「いじめを早期に発見するための取組」が具体的に進められています。

ポイント：いじめへの取組姿勢を全職員で共通理解した上で、早期発見のための方策や起きた場合の対応方法を検討するとともに、いじめを起ささないための「心を育てる指導」に学校の教育活動全体を通して取り組んでいきましょう。

(3)協議「各校における復興教育の取組」

「岩手の復興を担う人づくり」を目指す来年度の教育課程編成の在り方について、グループごとに話し合われた主な内容を紹介します。

- 学校として育てたい力を重点目標に設定して、各教科・領域との関連を明らかにした計画を立てること。
- 判断力を高める防災教育や、道徳強化月間等、全校を挙げた組織的・有機的な取組を進めること。
- 郷土を愛し、誇りに思う心情を育むために中心となる教科・領域を軸にした継続的な取組を計画すること。
- 何のために行うのか理念を明確にし、常に実態把握と計画の修正に留意すること。
- 地域との連携を深めること。

ポイント：学校経営計画等に復興教育のねらいや内容を位置付けて計画的な取組を進めましょう。

